

令和3年度第1回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会 会議内容報告書（書面会議）

日時	令和3年6月28日（月）から令和3年7月9日（金）まで
出席者	西村徳清，福島義教，梶浦仁，山下真実，弦間信，藤井忠行，村田典子，八重樫良二，佐久間裕司，水田恵學（10名）
事務局	高桑文化振興課長，山腋彫刻美術館長，山本彫刻美術館主査
会議の方法	書面による意見照会
会議の内容 （議題）	1 令和2年度事業報告について 2 令和3年度事業計画（案）について
会議資料	・令和2年度事業報告について ・令和3年度事業計画について
意見及び意見に対する事務局回答	別紙のとおり
審議結果	事務局回答に対し追加意見等がなく，事務局対案のとおり承認された。

審議事項に対する意見及び事務局回答  
(令和3年度第1回中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館協議会)

	議案頁	委員意見及び事務局回答
委員	—	○1回目の議案書には構成員（会議参加予定者）の名簿をつけた方がよい。 ・協議会委員は2年契約であるため更新年度ではないにせよ、彫刻美術館職員や市の担当者に変更が考えられるため
事務局 (回答)		次回以降の書面会議において構成委員及び事務局の名簿を同封いたします。
委員	—	資料を拝見して感じたのは、来館者が年々減っていくのはそうですが、高校生以下の数字が劇的に減っているのが気になります。コロナ禍もあるのですが、それ以前からかなり減っています。教育普及活動や出前授業など行っているようですが、もっと学生に来てもらえるような仕掛けが必要なのではないかと思いました。旭川は市内に彫刻が多数ありますが、日常の中ではその存在を意識することがあまりありません。美術館で彫刻の存在を改めて実感してもらって、日常の中の彫刻を意識できるといいなと感じます。
事務局 (回答)		図工美術の時間数の減少や校外学習活動の困難さなどを理由として、学校や学年単位での来館がほとんど見込めない状況となったことを受け、彫刻作品に触れ親しむ機会の創出を目指してH14年から巡回展示と出前授業を開始しました。しかし、それらの取組みが来館者増には繋がっておらず、更なる取組みが必要と認識しています。 観る、聞く、作るといった多様な関わりの場を提供し、それらの体験を通して新たな発見が可能となるよう、事業の種類や回数の増を目指してまいります。
委員	—	イベントに関しては、延期や中止は今の状況では仕方がないことなので、早く気兼ねなくイベントに人が集まることができるようになることを願っています。ただ、オンライン会議もそうですが、インターネットが全く利用出来ない状況は困ったものですね・・・前回も意見しましたが、コロナ禍ではインターネットを使った施策は「唯一」と言えるほどの手段です。人を集めることができない以上、後は「じっと待つ」以外に方法がありません・・・それほど難しいことなのでしょう。残念でなりません。そして、コロナ禍明けにも有効なツールでもありますので、一日でも早くインターネットを利用できることを願っています。
事務局 (回答)		これまでも繰り返し御指摘いただいているとおり、彫刻美術館としても情報発信や来館者の利便性向上のためにはインターネット環境は必要不可欠であると認識しております。こうした状況に対応するため、早期にW i - F i 環境の整備が図られるよう一層努めてまいります。

委員	ー	<p>6月開催予定だった旭川デザインウィーク（ADW）は9月に延期になりましたが、ステーションギャラリーの展示以外は、特に期間中に関連イベントも予定されていないようです。ADWの開催自体も危ういのですが、来年度以降でも関連したイベントなどを企画されてはいかがでしょうか。</p> <p>この状況がいつまで続くのか、全く分かりませんが、イベントなど自由に開催できるようになった時の事を考えておく必要があると思います。</p>
事務局 （回答）		<p>本年6月から9月にADWが延期されたことを受け、ADWの開催にあわせた彫刻美術館ステーションギャラリーにおける日本建築家協会北海道支部旭川地区会との共催事業である企画展も9月に延期することといたしました。こうした市内イベントと連携したイベント開催は相乗効果が図られることから、彫刻美術館主催事業と市内イベントとの連携強化について、コロナウイルス感染症の影響を勘案しつつ検討を進めてまいります。</p>
委員	3	<p>○「ブロンズの微笑～笹戸千津子展」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤忠良先生と師弟関係であり、買物公園の野外彫刻「若い女」のモデルとなった人物というあらたな発見、知識を得ることができて、野外彫刻に対して身近に感じる事ができた。</li> </ul>
事務局 （回答）		<p>今後の企画展や各種イベントにおいて、彫刻に関する興味が増すような情報発信に努めてまいります。</p>
委員	3、4	<p>○こども彫刻教室「流して固めて削って、石こうで白いツリーをつくらう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このような企画を、旭川市内外の小学校へ通知して、各学校から代表者を2名選考して、コンクールを開催し、優秀賞等の作品について表彰し、その作品を本館に展示し、賞賛すると共に集客をはかる。</li> </ul> <p>○彫刻フェスタワークショップ「削って、けずって木彫体験～木で恐竜のたまごを作ろう！～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このような企画で、小中学校対応コンクール会を開催し、旭川市教育委員会主催で表彰し、その優秀作品を1年間本館に展示し、彫刻に対し興味を持たせると共に集客をはかる。</li> </ul> <p>○高校生が興味を持つように、各高校対抗のコンクール開催『全国高等学校彫刻甲子園』を彫刻のメッカ旭川で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手始めに、旭川市内外の高校から代表者3名1組として、同じ素材、形状の加工可能な素材で、「テーマ」を決めてコンクールを開催。最優秀賞等を表彰する。</li> <li>・参加高校の全作品を本館に展示し、高校生や家族等の来館者を増やし集客をはかる。</li> </ul>
事務局 （回答）		<p>これまで彫刻美術館では、彫刻に対する親しみや関心を高めるため、こども彫刻教室や旭川彫刻フェスタにおけるワークショップなどを通じて気軽に体験できる事業として開催してきております。このため、ご提案にあるようなコンクール形式での開催はこれまで行っておりませんが、全国の高校生を対象とした彫刻制作コンテストを含め貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>

委員	4	<p>○旭川彫刻サポート隊、野外彫刻清掃ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このボランティアに参加した方々の名簿を本館やステーションギャラリーに、その活動風景などの写真とともに掲示する。又はアッシュの広場に活動している写真展等を開催する。</li> </ul>
事務局 (回答)		<p>旭川市内の野外彫刻を清掃していただいている「旭川彫刻サポート隊」の活動を紹介する方策として、ご提案の写真展を含め「旭川彫刻サポート隊」の自主企画などについて検討してまいります。</p>
委員	5	<p>○旭川野外彫刻マップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これを小学生全員に配布する。</li> </ul>
事務局 (回答)		<p>「旭川野外彫刻たんさくマップ」は、「気軽に、楽しく」野外彫刻を鑑賞してもらいたいという趣旨で作成したものであり、当館としても市内小中学校の全ての児童生徒に配布したいと考えますが、予算の制約があるため実現は困難です。過去には一定数量ずつ配布したこともありますが、児童生徒全てには行き渡らず、費用対効果の点でも疑問が残る結果となりました。そのため、現在では当館職員が小中学校で出前講座を行う際や、市内の中学校が野外彫刻清掃の事後活動として彫刻の学習を行うときなど、マップの有効活用が図られると思われる場合に、必要数を配布しております。</p> <p>今後も、市教研の先生方や各学校との連絡を密にし、マップの活用や資料提供について積極的に働きかけてまいります。</p>
委員	5	<p>○旭川市彫刻美術館の観覧者数の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の入館者が極端に少ない。あまりにも興味がなさすぎ。</li> </ul> <p>○彫刻美術館への入館者が少ない原因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館の知名度が低い。</li> <li>・旭川市民の人でも、彫刻美術館の存在を知らなかったり、どこにあるのかも知らない人がある。</li> <li>・彫刻に興味がない人は、まず来館しない。</li> <li>・入館しても興味がなければ、素通りして出てしまう。</li> </ul> <p>○入館者を増やすには</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭川市彫刻美術館の知名度を上げるため、旭川駅構内やアッシュ等へ、彫刻美術館のポスター等を掲示したり、写真展等を開き、野外彫刻等の魅力を引き出す。</li> <li>・旭川市彫刻美術館の来館者への案内、又は説明等を積極的に行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・旭川市彫刻美術館が身近に思えるように、中・高校生等の彫刻コンクール等を開き、その作品等を展示する。</li> </ul> </li> </ul>
事務局 (回答)		<p>知名度の向上や魅力の発信については当館の喫緊の課題であると認識しております。中でも、高校生を始めとする若年層に対するPRの取組みの必要性は高いものと捉えております。</p> <p>ただし、ポスターやチラシなど広報印刷物を大量に作成して配布することや、外部の展示スペースなどを借り上げて周知活動を行うことは予算上困難であるため、SNSアカウントの運用などゼロ予算での取組みが可能なところから発信力の強化に努めてまいります。</p> <p>また、来館者に対する説明や解説は、施設利用や作品鑑賞の満足度と充実度を向上させるために不可欠なものと考えておりますが、職員数には説明人員を割く余裕がなく、展示スペース上もパネル設置が可</p>

		<p>能な範囲が限られることから、人員や空間を使用せずにサービスできる方法を検討しており、QRコードとWi-Fi設備を利用した環境整備に努めてまいります。</p> <p>中高生を対象とした彫刻コンクールの実施は、彫刻美術館を認知してもらい、足を運んでもらう契機になるものと考えますので、今後、実現の可能性を検討してまいります。ただし、彫刻美術館本館は常設展示と企画展示とが一体の観覧料金となっており、中高生のコンクール作品は観覧料徴収対象とすることに相応しくないものと考えますので、展示室を使用しない展示のあり方なども含め、事業として成立するかどうかを判断してまいります。</p>
委員	14	<p>○年度計画には3ヶ月間の展示が4回入る形で構成されているが「多彩な展示～リピートの確保」(8頁)に対応しうるものか一考を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ会期中で展示替えを行うなどしてリピート率を高める。</li> <li>・収蔵品の新規購入は難しいことから、近隣の美術館・施設の作品を借用し、限られた予算の中で展示のラインナップを広げる。</li> <li>・展示の内容、見所どころを定期的に情報発信し、観光客や美術の初心者、学生の興味関心を引きつける工夫を講じる。</li> <li>・たとえば、旭川市のホームページ(彫刻美術館)を見ると、収蔵品展「存在―気配と実相のかたち」が説明されているが、ポスター1枚のみで視覚的に展示内容が伝わりにくい。展示内容の写真を数日おきにSNSでアップロードするなど、『手間を少なく、ひと目でわかる』取り組みを進める。(ほんの数分でできること)</li> </ul> <p>公式HPの更新となるとホームページ作成に長けた担当者が必要になる。業者依頼の場合はアップロード費用がかかり、その影響で新鮮な情報が伝わりにくくなることが考えられる。</p> <p>○情報発信(広報活動)の充実が急務 広報の計画・項目を設定すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良い展示やワークショップも来場者に情報が届かないともったいない。</li> <li>・場所・施設に掲示できるポスター・チラシ、不特定多数に伝えるインターネット・SNSの利点を活用する。</li> </ul>
事務局 (回答)		<p>展示作品の入れ替えや近隣施設からの借用等については運搬経費を要することから、年間で限られた回数しか実施できないのが実情です。今後は、ご指摘いただいたとおりSNSを積極的に活用し、展示内容や作品、建物等についての魅力を様々な切り口から発信するように努めてまいります。</p> <p>また、全庁的なサウンディング調査の機会があることから、当館の魅力の向上や情報発信に関する事項について幅広く意見を求め、運営の参考といたします。</p>